

平成29年5月
青森市（青森県）

○計画期間:平成24年4月～平成30年3月(6年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点(平成29年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、平成19年2月に国の認定を受けた「第1期青森市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了に伴い、「第2期青森市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成24年3月に国の認定を受け、引き続き、中心市街地活性化に積極的に取り組んでいる。

本市の中心市街地は、平成22年12月の東北新幹線全線開業及び、平成28年3月の北海道新幹線 新青森・新函館北斗間の開業効果や、第1期計画で位置づけた「青森市文化観光交流施設ねぶたの家 ワ・ラッセ」の整備などにより、ウォーターフロント地区を中心ににぎわいを創出している。一方で、中心市街地の核的施設である「フェスティバルシティ アウガ」において、テナントの退店などに伴い、入館者数が減少し、商業フロアが平成29年2月をもって閉館するなど、地方都市における長引く個人消費の低迷などを背景に、中心市街地を取り巻く環境は、非常に厳しい状況が続いている。

平成28年度は、本計画に位置づけている一部の計画事業の期間延長に伴い、計画期間を1年（平成30年3月まで）延長するとともに、健康づくりに関する情報提供等を行う「まちなか保健室運営事業」など3事業を追加する等の計画変更を申請し、本年3月24日に国の認定を受けたところであり、平成29年3月末現在で、全55事業のうち、10事業が完了及び終了、43事業が実施中、2事業が実施検討中となっている。

本市としては、第2期計画に掲げた「ウォークブルタウンの確立」を目標に、計画に位置づけた事業を着実に進めるとともに、事業の追加や変更など、必要に応じた計画の見直しを通じて、引き続き、中心市街地の活性化を推進していく。

2. 平成28年度の実施等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「第2期青森市中心市街地活性化基本計画」について、青森市と協議会で総会のほか、必要に応じ、タウンマネジメント会議・運営委員会といった会議を開催すると共に、民間事業者・商店街関係者・関係各機関において構成される「青森市街づくりあきんど隊 朝会議」を月1回開催し、各種事業の協議等を行うなど、継続して官民が密接な連携をしながら取り組んできた。

中心市街地における交流人口の拡大、空き地・空き店舗の解消など、順調に推移している状況もある一方、「街の楽しみづくり（歩行者通行量）」、「街ぐらし（夜間人口）」については、評価指標の実績値が減少傾向にあることから、今後、計画に位置づけた核的事業の着実な推進や既存事業の見直し、新規事業の展開等により、中心市街地全体の回遊性向上を図るなど、目標達成に向け、中心市街地活性化のより一層の推進を求める。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (H22)	目標値 (H29)	最新値 (H28)	前回の 見通し	今回の 見通し
街の楽しみづくり	歩行者通行量 (20 地点) (人/日)	74,048	77,554	51,572	③	③
交流街づくり	年間観光施設入込客数 (暦年) (人/年)	1,117,370	1,719,100	1,657,850	①	①
街ぐらし	夜間人口 (人)	3,547	3,737	3,358	①	①
商業の活性化	空き地・空き店舗率 (%)	16.4	13.1	13.1	①	①
	【参考指標】 小売業年間商品販売額 (百万円/年)	-	-	39,111	-	-

- 注) ①取組 (事業等) の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

2. 目標達成見通しの理由

① 歩行者通行量について

平成28年の平日における一日あたりの歩行者通行量は、平成22年基準値74,048人との比較で22,476人減の51,572人となっている。

前回フォローアップと比較すると9,410人減となり、中心市街地の核的施設である青森駅前再開発ビル「フェスティバルシティ アウガ」の来館者数の減少や悪天候の影響などが考えられる。

今後は、青森-天津間の国際定期便就航等を契機に観光客の増加が見込まれるとともに、民間主体による様々な都市機能の整備が進められていることから、引き続き関係機関等と連携・協力を図りながら、「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」「まちなかフィールドスタディ支援事業」など本計画に位置づけている各事業を着実に推進し、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

② 年間観光施設入込客数について

平成28年の年間観光施設入込客数は、平成22年基準値1,117,370人と比較して、54万4,800人増の1,657,850人となっている。

前年のフォローアップと比較すると1,025,922人増となっており、北海道新幹線新青森駅・新函館北斗間の開業や、青森・函館DCキャンペーンの展開、「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」の全面リニューアルオープン (前年は一部閉館) による影響などが考えられる。

今後は、東北最多の実績を有する大型クルーズ客船の寄航や、青森-天津間の国際定期便就航を契機に国内外の観光客の増加が見込まれることから、各観光施設が連携して魅力向上を図るとともに、「Aomori 春フェスティバル」「アートで音楽のあるまちづくりイベント A-Paradise」など本計画に

位置づけている各事業を着実に推進することにより、目標達成は可能と見込んでいる。

③ 夜間人口について

平成28年の夜間人口は、平成22年基準値3,547人との比較で189人減の3,358人となっている。

前年のフォローアップと比較すると92人減となっており、少子高齢化・人口減少の進行による影響などが考えられる。

平成29年度中には「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」の整備効果が見込まれるとともに、民間主体による様々な都市機能の整備が進められていることから、関係機関等と連携・協力して住宅供給を促進し、引き続き目標達成に向けて努力していく。

④ 空き地・空き店舗率について

平成28年の空き地・空き店舗率は、平成22年基準値16.4%との比較で3.3ポイント改善の13.1%となっている。

前年のフォローアップと比較すると同率となっており、歩行者通行量の減少等によるマイナス作用の影響の一方で、助成制度である「商店街空き店舗対策事業」や、融資制度である「中心市街地にぎわいプラス資金融資」の事業効果により、空き地・空き店舗の解消が順調に進んだプラス作用による影響が考えられる。

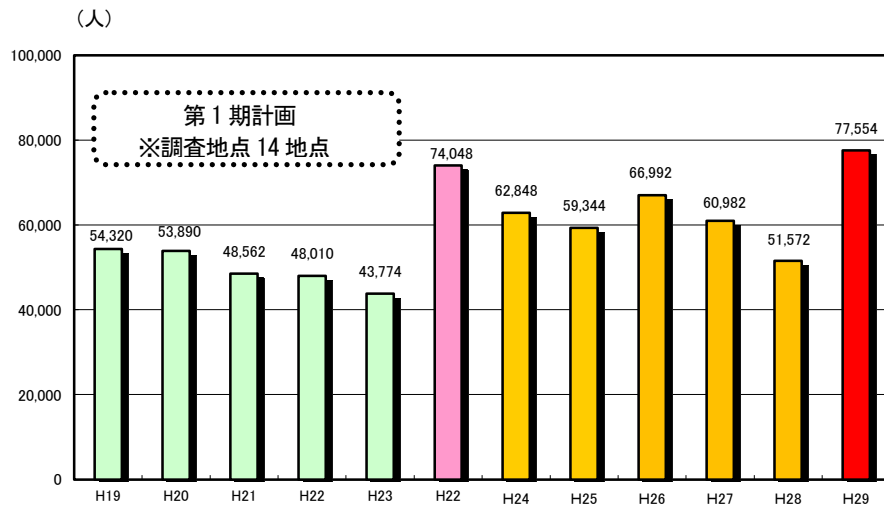
今後は、引き続き関係機関等と連携を図りながら、「商店街空き店舗対策事業」「中心市街地にぎわいプラス資金融資」など本計画に位置づけている各事業を着実に推進することにより、更なる改善を目指す。

3. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップ結果から変化なし。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P44～P53 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H22	74,048 (基準年値)
H23	—
H24	62,848
H25	59,344
H26	66,992
H27	60,982
H28	51,572
H29	77,554 (目標値)

※調査方法；午前9時から午後7時までの10時間、それぞれ1時間のうち30分間計測し、その2倍を1時間当りの数値として集計 (20 地点)

※調査月；6月

※調査主体；青森商工会議所

※調査対象；自転車を含む中学生以上の歩行者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 青森駅周辺整備推進事業 (青森市)

事業完了時期	【未】平成32年度
事業概要	青森駅周辺地区において、自由通路、駅、都市サービス施設の一体的な整備と、青森駅東口・西口を機能分担し、一体となって多様な交通手段に対応できる交通ターミナルとして整備を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度 事業着手 平成32年度 事業完了予定 青森駅前駐輪場と青森駅ビルラビナ前2地点を合計し926人/日の歩行者通行量の増加を見込む。

②. 中新町ウエスト地区優良建築物等整備事業 (中新町ウエスト街区まちづくり協議会)

事業完了時期	【済】平成25年度 (平成24年度繰越)
事業概要	老朽化したビル、空き地及び中小小売店舗等の共同化・集約化により、ケーブルテレビのネットワークを活用した情報発信センターをはじめ、教育・人的交流の活動拠点やオフィスなど、多機能型の施設整備を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年7月 工事着手 平成25年9月 竣工 「③中新町センター地区優良建築物等整備事業」の事業完了との相乗効果により、推計1,077人の歩行者通行量の増加のほか、各種イベント等の実施により、周辺地区の賑わいや回遊性向上に寄与した。

③. 中新町センター地区優良建築物等整備事業（中新町センターまちづくり合同会社）

事業完了時期	【済】平成26年度(平成25年度繰越)
事業概要	老朽化した中小小売店舗等及び空き店舗等の共同化・集約化により、魅力的な商業空間やパブリックスペース、居住など、複合的な機能を有する施設整備を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年11月 工事着手 ・平成26年8月 竣工 ・「②中新町ウエスト地区優良建築物等整備事業」の事業完了との相乗効果により、推計1,077人の歩行者通行量の増加に寄与した。 ・52戸の住宅供給により、推計で夜間人口118人の増加により、周辺地点で約700人の歩行者通行量の増加に寄与した。

④. 古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業

(古川一丁目12番北地区まちづくり協議会)

事業完了時期	【未】平成29年度(平成28年度繰越)
事業概要	市民の台所「古川市場」街区の一部において、老朽化した建物及び空き店舗の共同化・集約化により、居住、公共的通路とポケットパークを備えた施設の整備を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月解体工事実施 ・平成28年3月施設建築物工事着工 ・56戸の住宅供給により、推計で夜間人口128人の増加と、周辺地点で約768人の歩行者通行量の増加を見込む。

⑤. 駅前子育て支援事業（株式会社JR東日本青森商業開発）

事業完了時期	【実施中】平成25年度～
事業概要	子供たちが天候や気候に左右されず遊べる場を提供し、親子の心身発達に貢献するとともに、中心市街地における親子連れの集客を図る。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年1月 施設オープン ・平成26年1月～平成29年3月末 利用者数71,482人

⑥. まちなかフィールドスタディ支援事業（青森市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	中心市街地のにぎわい創出など、多様な活動を行う、サークル等の学生団体に対して支援を行う。
事業効果又は進捗状況	平成28年度は、市内の学生団体12団体が中心市街地において行う、学生ファッションショーやミュージカル公演等の実施を支援。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

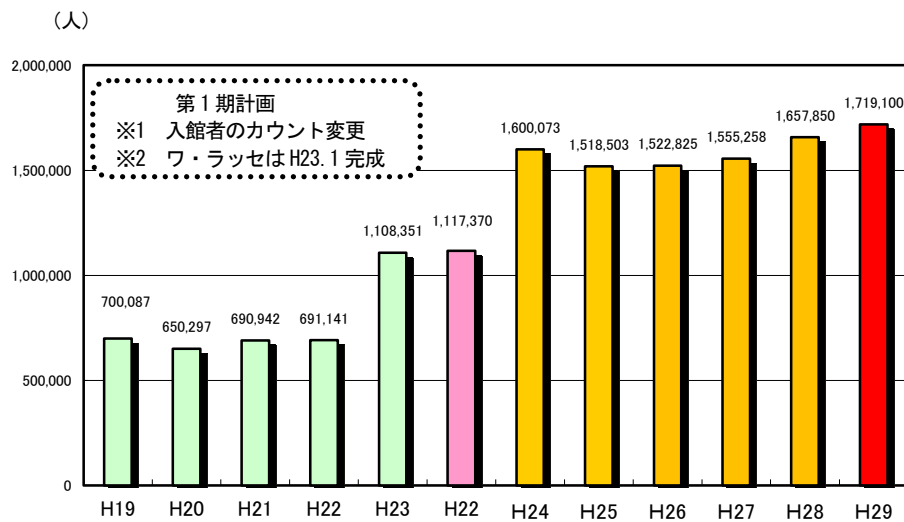
平成28年の平日における一日あたりの歩行者通行量は、平成22年基準値74,048人との比較で22,476人減の51,572人となっている。

前回フォローアップと比較すると9,410人減となり、中心市街地の核的施設である青森駅前再開発ビル「フェスティバルシティ アウガ」の来館者数の減少や悪天候の影響などが考えられる。

今後は、青森―天津間の国際定期便就航等を契機に観光客の増加が見込まれるとともに、民間主体による様々な都市機能の整備が進められていることから、引き続き関係機関等と連携・協力を図りながら、「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」「まちなかフィールドスタディ支援事業」など本計画に位置づけている各事業を着実に推進し、引き続き目標達成に向けて最大限努力していく。

「年間観光施設入込客数」※目標設定の考え方基本計画 P53～P56 参照

1. 調査結果の推移



年	人/年
H22	1,117,370 (基準年値)
H23	—
H24	1,600,073
H25	1,518,503
H26	1,522,825
H27	1,555,258
H28	1,657,850
H29	1,719,100 (目標値)

※調査方法；関係機関への聞き取り調査

※調査月；5月

※調査主体；青森市

※調査対象；青森県観光物産館アスパム、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」の入込客（暦年）

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 港湾文化交流施設改修事業（青森市）

事業完了時期	【済】平成27年度
事業概要	青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸のよりよい保存に向けた船体の調査等を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度から平成25年度にかけて調査及び詳細設計を実施。平成26年度より改修工事開始。平成21年2月に近代化産業遺産に、平成23年8月に日本機械学会から機械遺産に認定された青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸を良好な状態で保存をしていく。 事業実施により、入込客数19,200人の増加を見込む。

②. 青森港国際化推進事業（青森港国際化推進協議会）

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	クルーズ客船等の誘致活動と、誘致客船の乗客・乗員に対する中心市街地への回遊促進の取り組みを実施する。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度 クルーズ客船20隻が来航し、乗客乗員約42,500人が本市を訪れた。 平成29年度 クルーズ客船23隻の来航を予定している。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

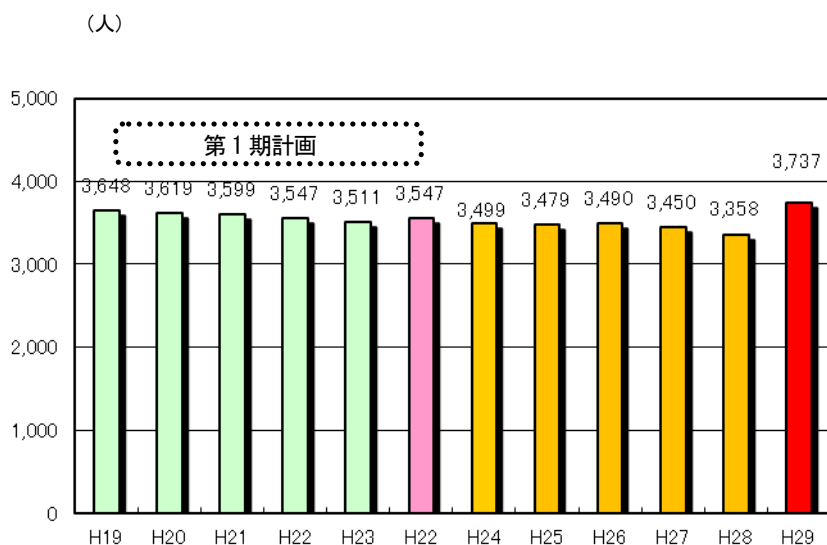
平成28年の年間観光施設入込客数は、平成22年基準値111万7,370人と比較して、54万480人増の165万7,850人となっている。

前年のフォローアップと比較すると102,592人増となっており、北海道新幹線新青森駅・新函館北斗間の開業や、青森・函館DCキャンペーンの展開、「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」の全面リニューアルオープン（前年は一部閉館）による影響などが考えられる。

今後は、東北最多の実績を有する大型クルーズ客船の寄航や、青森―天津間の国際定期便就航を契機に国内外の観光客の増加が見込まれることから、各観光施設が連携して魅力向上を図るとともに、「Aomori 春フェスティバル」「アートで音楽のあるまちづくりイベント A-Paradise」など本計画に位置づけている各事業を着実に推進することにより、目標達成は可能と見込んでいる。

「夜間人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P60 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H22	3,547 (基準年値)
H23	3,511
H24	3,499
H25	3,479
H26	3,490
H27	3,450
H28	3,358
H29	3,737 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳からの集計

※調査月；10月（9月末日現在）※平成26年以降は10月1日現在

※調査主体；青森市

※調査対象；中心市街地内住所の住民基本台帳登録者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. 中新町センター地区優良建築物等整備事業（中新町センターまちづくり合同会社）

【再掲】 P5参照

- ②. 古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業

（古川一丁目12番北地区まちづくり協議会）

【再掲】 P5参照

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

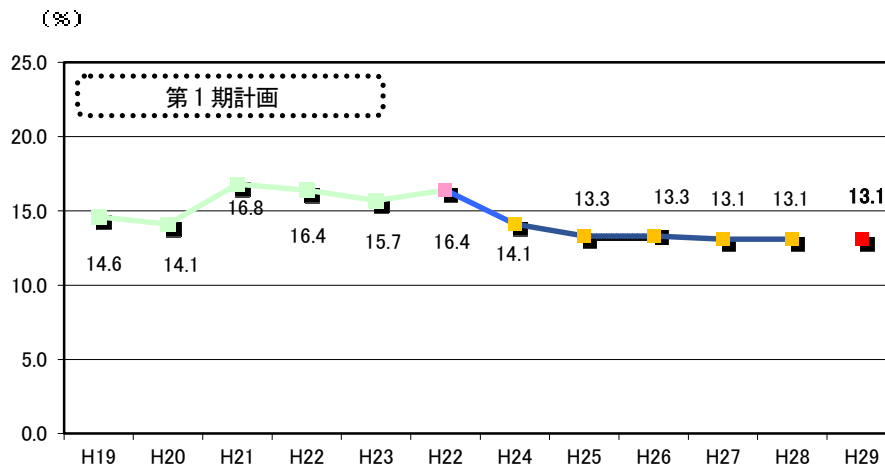
平成28年の夜間人口は、平成22年基準値3,547人との比較で189人減の3,358人となっている。

前年のフォローアップと比較すると92人減となっており、少子高齢化・人口減少の進行による影響などが考えられる。

平成29年度中には「古川一丁目12番地区優良建築物等整備事業」の整備効果が見込まれるとともに、民間主体による様々な都市機能の整備が進められていることから、関係機関等と連携・協力して住宅供給を促進し、引き続き目標達成に向けて努力していく。

「空き地・空き店舗率」※目標設定の考え方基本計画 P60～P64 参照

1. 調査結果の推移



年	%
H22	16.4 (基準年値)
H23	15.7
H24	14.1
H25	13.3
H26	13.3
H27	13.1
H28	13.1
H29	13.1 (目標値)

※調査方法；現場確認による空き地・空き店舗調査

※調査月；10月

※調査主体；青森市

※調査対象；中心市街地にある商店街の空き地・空き店舗

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地にぎわいプラス資金融資（青森市）

事業完了時期	【実施中】平成18年度～
事業概要	商業機能の充実に向けた民間投資を誘導するため、中小企業者を対象とした中心市街地区内で行われる店舗の新增設等への融資制度を創設し、当該融資による利子及び保証料を補給
事業効果又は進捗状況	・平成18年度から平成28年度までに41件融資を行っており、空き地・空き店舗解消が35件となっている。今後も更なる空き店舗の解消を目指す。

②. 商店街空き店舗対策事業（青森市）

事業完了時期	【実施中】平成24年度～
事業概要	中心市街地の区域内にある商店街などの空き店舗に出店しようとする中小企業者等に対して、家賃及び店舗改装費の一部を補助する。
事業効果又は進捗状況	・平成28年度は13件の新規申請者に対し家賃補助及び改装費補助を行い、事業開始からこれまで、空き店舗解消が33件となっている。今後も更なる空き店舗の解消を目指す。

③. 青森と首都圏をつなぐビジネス交流拠点構築事業（青森市）

事業完了時期	【実施中】平成27年度～
事業概要	中心市街地に今後整備する新たに起業・創業しようとする方や中小企業者等をサポートするビジネス交流拠点と、首都圏におけるビジネス交流拠点を結び、新たな商品開発や販路拡大等の促進を行う。
事業効果又は進捗状況	<ul style="list-style-type: none">・平成27年度は、新たに東京都港区赤坂に首都圏のビジネス交流拠点を整備し、オープンした。・中心市街地においては、起業・創業等相談ルーム運営事業を継承し、構想・企画の段階から起業・創業の実現に至るまでの各種相談業務を継続している。・相談件数のべ 374 件・中心市街地における支援制度手続き補助 1 件

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成28年の空き地・空き店舗率は、平成22年基準値16.4%との比較で3.3ポイント改善の13.1%となっている。

前年のフォローアップと比較すると同率となっており、歩行者通行量の減少等によるマイナス作用の影響の一方で、助成制度である「商店街空き店舗対策事業」や、融資制度である「中心市街地にぎわいプラス資金融資」の事業効果により、空き地・空き店舗の解消が順調に進んだプラス作用による影響が考えられる。

今後は、引き続き関係機関等と連携を図りながら、「商店街空き店舗対策事業」「中心市街地にぎわいプラス資金融資」など本計画に位置づけている各事業を着実に推進することにより、更なる改善を目指す。